

令和 7 年度から令和 9 年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
(二国間クレジット制度資金支援事業のうち設備補助事業)
～公募説明会及びメールでの質疑応答～

作成日：令和 7 年 4 月 25 日

【1. 設備補助事業全般】

＜事業形態＞

Q1-14:	JCM 設備補助事業の総予算額は 3 カ年で約 114 億円が想定されているが、初年度がその 3 分の 1 の 38 億円等区切られているのか。(初年度の採択は 38 億円が上限となるのか。) それとも初年度で採択基準を満たす案件の応募が多い場合、114 億円が採択され 2,3 年目は採択ゼロという可能性もあるのか。
A1-14:	年度別の予算はそれぞれ割当てられており、3 カ年の合計で約 114 億円となります。したがって、初年度(令和7年度)に全ての予算を使うことはありません。

Q1-15:	初年度予算は原則一次採択分審査対象に割り当てる予定とのことだが、二次、三次採択分審査へ応募する場合、1 年目の予算がゼロであっても応募が可能なのか。
A1-15:	複数年事業の場合、1 年目予算がゼロであっても応募が可能です。ただし、事業の最終年度の補助金申請額をゼロとすることはできません。

＜優先国＞

Q1-18:	30 カ国目として署名が見込まれるグローバルサウス諸国にブラジルは含まれるか。
A1-18:	個別の相手国との交渉については回答できません。尚、ブラジルについては、2025 年 3 月 25 日にブラジル連邦共和国環境気候変動大臣と浅尾環境大臣との会談において、JCM を含む炭素クレジットなどの分野で知見をもっていることを述べました。詳細は、以下をご参照ください。 https://www.env.go.jp/press/press_04696.html

【5. 審査】

Q5-7:	BaU とリファレンスからの GHG 排出削減量の違いは何か。
A5-7:	BaU(Business as Usual) 排出量は成り行き排出量を指し、本プロジェクトを実施しなかった場合に想定される GHG 排出量を指します。リファレンス排出量は、パートナー国の最新 NDC の達成に貢献できるように、BaU 排出量を下回るレベルで保守的に設定されるものです。

Q5-8:	BaU からの GHG 排出削減量とリファレンスからの GHG 排出削減量の2種類の算定が必要とのことだが、費用対効果の算定にはいずれの値を用いるのか。
A5-8:	GHG 排出削減総量に係る補助金額の費用対効果はリファレンスからの削減量にて算出します。

以上